

# 第6次高浜市総合計画 中期基本計画

## 施策課題カルテ

目標

(4)学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます

〔とりまとめG〕 教育委員会 教育センターグループ

# I. 目標と目標の達成状況

1. 目指す姿と目安となる指標						
目標	<b>(4)学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます</b>					
目標達成に向けての考え方	幼稚園・保育園、小学校、中学校といった異校種間の「タテのつながり」と、園・学校・家庭・地域といった「ヨコのつながり」を密にし、次世代を担う子どもをみんなで力を合わせて育てていきます。					
目標が達成された姿	① 高浜市内の幼・保、小、中すべての教職員が、それぞれの教育観や指導法の共通点・相違点を十分理解した魅力ある授業を実施したり、子どもの様子について情報の交換を密にしたりすることで、子どもが元気に園や学校へ通っています。 ② 子どもが学校や家庭だけでなく、地域の様々な人とかわりながら学んでいます。 ③ 発達段階に応じた学習習慣や生活習慣を身につけた子どもが増えています。					
指標の状況	みんなで目指すまちづくり指標	現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)
	1) 学校が好きと感じている子どもの割合	81.8%	88.4%	88.3%		85%
	2) 学習に積極的に取り組む子どもの割合	69.4%	76.5%	76.1%		75%
2. 市民意識調査結果						
設問	現状値 (H25)	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	
学校・家庭・地域が連携し、子どもの12年間(4歳～15歳)の学びや育ちを育む体制が整っているまちだと思う	61.5%	61.5%	62.3%			
3. 「みんなで目指すまちづくり指標」「市民意識調査」結果に対する現状分析(要因・課題等)						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼保小中の異校種間連携事業を各園・各校で工夫して行い続けることで、自己有用感を高めることにつながった。</li> <li>・ 異校種間連携事業で、子どもたちが今の学校生活にフィットしているため、学校生活を安心して過ごすことができ、学校が好きだという気持ちにつながった。</li> <li>・ 高浜カリキュラムの生活科・総合的な学習の時間で、単元を通して子どもたちが主体的に学びを深め、学習するおもしろさを実感できた。また学習を進めるために、地域の方の協力を得て、共に授業をつくることができた。</li> <li>・ 高浜市が育てていきたい子どもの姿を周知するツールとして、子どもたちの活動の様子が分かる写真や、子どもの作成したイラストが掲載されたカレンダーを園児・児童・生徒の各家庭の他に、まち協など地域各種団体にも配布した。</li> </ul>						

4. 「目標」と「みんなで目指すまちづくり指標」の適切性	
指標1) 学校が好きと感じている子どもの割合	
設定根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期指標の実績値の推移を踏まえると、年間2%増を期待値として設定したいが、指標の質を高めたことや、すでに8割の児童生徒が「好き」または「どちらかといえば好き」と感じていることを考え、4年後の平成29年度(2017)の目標値を、現状値から約3%上昇の「85%」と設定する。</li> </ul>
指標の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>8割を超える子どもが好きと感じている時、互いに良い影響を与え合うことができ、積極的に活動できるため、引き続き目標値を「85%」と設定する。</li> </ul>
目標値の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>「好き」と感じる事が、主体的で深い学びにつながる。好きと感じている子どもの割合を高い目標値に設定することは、適切である。</li> </ul>
指標2) 学習に積極的に取り組む子どもの割合	
設定根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期指標の策定時に設定した目標値に確実に近づいていることから、前期の実績値の推移を踏まえ、現状値の約5%上昇の「75%」と設定する。(H22:65.8% ⇒ 目標値(H25)70%)</li> <li>前期最終年度の実績値より、現状値が低いのは、前期指標の測定方法が「学校や自分の家などで学習に積極的に取り組んでいますか」と、総括的に一問で質問をしていたためと考える。中期は、より多角的に測定するので、上記の現状値であるが、中期の施策により、学習内容の質の向上、児童生徒の学習習慣の定着化を期待して、上記目標値に設定する。</li> </ul>
指標の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・対話的で深い学びは、新学習指導要領でも重視される。そのため引き続き目標値を「75%」と設定する。</li> </ul>
目標値の適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>7割の子どもが学習に積極的に取り組めば、互いの姿や対話によって影響を受け、学び喜びや、力が高まっていくため適切である。</li> </ul>

## Ⅱ. 目標達成のための取り組み

### 1. 「こんなことに取り組みます！」を構成するアクションプラン一覧

こんなことに取り組みます！	アクションプラン事業名	
(1) 幼稚園・保育園、小学校、中学校の垣根を越えて、教職員同士が現場をふまえた情報交換を密にするとともに、子どもたちの交流を行うなど、発達段階に応じた教育を実践します。	H26	【No.18】異校種間連携推進事業
	H27	【No.18】異校種間連携推進事業
	H28	【No.18】異校種間連携推進事業
	H29	【No.17】異校種間連携推進事業
(2) 各園・各学校の特色や高浜市のまちの資源（ひと・もの・こと*）を活かした「高浜カリキュラム（生活・総合的な学習の時間）」を市内全園・全校で実施します。	H26	【No.19】高浜カリキュラム推進事業
	H27	【No.19】高浜カリキュラム推進事業
	H28	【No.19】高浜カリキュラム推進事業
	H29	【No.18】高浜カリキュラム推進事業
(3) 高浜市として育てていきたい子どもの姿を策定し、地域ぐるみで子どもの成長を見守り、手助けする教育基盤づくりを進めます。	H26	【No.20】めざす子ども像推進事業
	H27	【No.20】めざす子ども像推進事業
	H28	【No.20】めざす子ども像推進事業
	H29	【No.17】異校種間連携推進事業

2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容			
こんなことに取り組みます！	(1) 幼稚園・保育園、小学校、中学校の垣根を越えて、教職員同士が現場をふまえた情報交換を密にするとともに、子どもたちの交流を行うなど、発達段階に応じた教育を実践します。		
アクションプラン 事業名	H26～H29 異校種間連携推進事業	担当部・グループ	教育委員会 教育センターグループ
実施内容	何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する		いつ(年月)
平成26年度	①異校種参観(年長・小1・小6・中1担任)や異校種間連携事業を実施した。(幼保小連携、小中連携)		H26.4～ H27.3
	②異校種間連携推進委員会を開催し、各校連携の状況報告を行った。(年5回)		H26.5～ H27.3
	③「中1ギャップ」に関する実態調査を行い、分析結果を報告した。		H26.6 H27.1
平成27年度	①異校種参観を年長、小1、小6、中1担当教諭で行った。		H27.5～
	②中1生徒の学校生活意識調査を行い、異校種間連携推進委員会にて分析結果を報告した。		H27.6 調査 H27.8 報告
	③異校種連携事業・異校種参観の成果と課題をまとめ、周知した。		H28.1
平成28年度	①異校種参観を対象職員で行った。		H28.5～
	②中1生徒の学校生活意識調査を行い、結果を報告した。		H28.6
	③幼保小中連携事業の年間計画を現状に合わせて改善した。		H28.5～
	④幼保小中の学習指導法を集約した。		H28.5～
	⑤「育てていきたい子どもの姿」周知のためにカレンダーを配布した。		H28.5
平成29年度 (予定)	①平成28年度の実践を引き続き行う中で改善を図る。		H30.3
	②めざす子ども像につながる姿の蓄積を行う。(写真・イラスト)		H30.3
「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異校種間連携事業の意義(以下①～③)を明確にし、職員が事業の価値を高める工夫や整理を進めることができた。</li> <li>① 上級学校へ入学する子どもが入学後の見通しをもち、憧れや目標を抱く。</li> <li>② 子どもが自分の成長に気づき、自信をもって目標に挑戦したり、これまでの支えに感謝したりする。</li> <li>③ 上級学校の子どもが、入学する子どもに伝えたいことを考えたり、表現したりする力を養っている。子どもが、互いの思いを受けとめ、より良い方向に進む力を養っている。</li> </ul> <p>以上から、子どもたちが自己有用感を高めることができた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異校種間連携事業の内容を見直し、改善を図っていく一方で、役割を終えたものについては、スクラップを適切に図り、目標を見失わないようにする。</li> </ul>		
特記事項			

2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容			
こんなことに取り組みます！	(2)各園・各学校の特色や高浜市のまちの資源(ひと・もの・こと*)を活かした「高浜カリキュラム(生活・総合的な学習の時間)」を市内全園・全校で実施します。		
アクションプラン事業名	H26～H29 高浜カリキュラム推進事業	担当部・グループ	教育委員会 教育センターグループ
実施内容	何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する		いつ(年月)
平成26年度	①幼保小中において、保育計画・学習計画を作成・実践した。		H26.4～
	②各園、各校の実践を、他園や他校が参考にできるように、「学習指導計画」や「ワークシート」などの各指導資料を作成し、全園・全校がいつでも閲覧できるように保存した。		H27.3
平成27年度	①高浜カリキュラムを充実させるために、推進委員会を3回開催し、目標や入力するモデルプランを話し合った。		H27.5・8
	②高浜カリキュラムの目標や実践後の子どもの姿を、発達段階を踏まえて確認した。		H27.8
	③各園・各校における高浜カリキュラムの実践状況を確認し、ワークシートや単元構想図などを所定の場所に整理して保存した。		H27.5・8
平成28年度	①年長の食育、小2の生活科、小6の防災、中3のキャリア教育のモデルプランを加えて、12年間の学びをつなげる高浜カリキュラムを実践した。		H28.5～
	②これまで集約したモデルプランや資料について実践を行いながら、修正を加えた。		H28.5～
	③各教科において、子どもを生き生きと活動させる魅力ある単元構想を集約し、教員の授業力の向上を図り、子どもの学力定着や生きる力の育成につなげた。		H28.5～
平成29年度 (予定)	①食育、生活科・総合的な学習の時間の高浜カリキュラムの改訂を行う。		H30.3
	②教科版高浜カリキュラムの集約を行う。		H30.3
	③他部局が把握している地域の方の周知を行う。		H30.3
	④高浜カリキュラムでアクティブラーニングを取り入れ、主体的・対話的で深い学びを狙い、コミュニケーション能力の育成につなげる。		H30.3
「目標が達成された姿」の実現に向けての成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科で育む知識・技能に加えて「思考力・判断力・表現力」と「学びに向かう力・人間性」をバランスよく育成する「高浜カリキュラム」を編成できた。</li> <li>地域の特色に根ざし、地域の資源を活用した実践のモデルプランを集約できた。</li> <li>中学校のキャリア教育で、職業の理解を深めながら理想とする自己の生き方を見つけ、その実現に向けて生涯にわたって努力できる力が身につくよう、学習内容を組み立てることができた。</li> <li>幼保小中の12年間の学びをつなぐ41個の実践モデルを集約できた。</li> <li>生活科や総合的な学習の時間で行う高浜カリキュラムに加え、優れた実践を集めた高浜カリキュラム(教科版)も集約できた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科において、子どもが課題意識を高め、自ら追究し、主体的な学びで、「学習するおもしろさを実感できた」と言うことができる実践を集約し、教員それぞれが工夫して活用することで、授業の質を向上させ、自信をもって取り組めるものにしていくこと。</li> </ul>		
特記事項			

2. 「こんなことに取り組みます！」の実施内容			
こんなことに取り組みます！	(3)高浜市として育てていきたい子どもの姿を策定し、地域ぐるみで子どもの成長を見守り、手助けする教育基盤づくりを進めます。		
アクションプラン 事業名	H26～H28 めざす子ども像推進事業 H29 異校種間連携推進事業	担当部・グループ	教育委員会 教育センターグループ
実施内容	何を・どのように・どうした(どうする) ※箇条書きで記載する		いつ(年月)
平成26年度	① 異校種間連携推進委員会にて、育てていきたい子どもの姿の周知方法を検討した。		H26.5～8
	② 異校種間連携推進委員会にて、育てていきたい子どもの姿を周知するためのカレンダーや周知用ポスターのデザインについて検討した。		H26.8
	③ 教育基本構想推進の様子を家庭や地域に可視化するため、カレンダーに各校各園の活動写真や連携交流事業日程を掲載したデザインにした。		H27.1
平成27年度	① 「育てていきたい子どもの姿」周知のためにカレンダーを配布した。また、PTA 総会などを活用して、保護者へ説明した。		H27.5
	② 「育てていきたい子どもの姿」周知のために実践した具体的な取り組みを推進委員会で発表した。		H27.8
	③ 報に毎月の重点目標を紹介した。		H27.7～
平成28年度	① 異校種参観を対象職員で行った。		H28.5～
	② 中1生徒の学校生活意識調査を行い、結果を報告した。		H28.6
	③ 幼保小中連携事業の年間計画を現状に合わせて改善した。		H28.5～
	④ 幼保小中の学習指導法を集約した。		H28.5～
	⑤ 「育てていきたい子どもの姿」周知のためにカレンダーを配布した。		H28.5
平成29年度 (予定)	① 平成28年度の実践を引き続き行う中で改善を図る。		H30.3
	② めざす子ども像につながる姿の蓄積を行う。(写真・イラスト)		H30.3
「目標が達成された姿」の実現 に向けての 成果・課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>育てていきたい子どもの姿に近づくために日頃学校が行っている取組を、家庭だけでなく地域にも周知することができた。</li> <li>育てていきたい子どもの姿につながる子どもの姿や教育活動の場面の蓄積(写真・イラスト)をし、カレンダーにすることで、幼保園から、中学校まで互いの姿を知ることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各家庭に1部ずつ配布するのではなく、園児から中学生まで全員に配布する。</li> <li>子ども一人一人が、自分のカレンダーを使って「育てていきたい子どもの姿」が意識できるようにする。</li> <li>カレンダーの日にち枠に記入する行事を精選し、書き込めるスペースを広げて活用型のカレンダーを考える。</li> </ul>		
特記事項			

### Ⅲ. 今後の取り組みの方向性

#### 1. 今後予想される社会変化や動向、新たな課題

- 変化する時代の中でも将来に渡って通用する力（探求力・表現力・実践力）や、異なる言語や価値観をもつ人々とどう関わっていくかを考える「協働的思考力」を育む取り組みを工夫する。

#### 2. 今後、特に力を入れる取り組み（優先度の高いもの3つ）

##### （1）高浜カリキュラムの集約

- 生活科・総合的な学習の時間の取組について改善を加えていく。
- 教科版として、優れた取り組みの指導案や単元構想などを集約し、教員の参考となるようにする。

##### （2）異校種間連携事業（異校種参観含む）

- 子ども中心の取り組みである異校種間連携事業を精選し、改善する。
- 異校種参観を行い、互いの教育観を学び、授業力を高めることにつなげる。
- 高浜版指導法として、日常的に取り組んでいる優れた指導の実践例を集約する。

##### （3）育てていきたい子どもの姿の周知（カレンダー作成）

- 各家庭に1部ずつ配布するのではなく、園児から中学生まで全員に配布する。
- 子ども一人一人が、自分のカレンダーを使って「育てていきたい子どもの姿」が意識できるようにする。
- カレンダーの日にち枠に記入する行事を精選し、書き込めるスペースを広げて活用型のカレンダーを考える。

### Ⅳ. 施策(目標)構成の検証

- 異校種間の連携を推進する目的は、12年間の学びや育ちをつなげ、確かな学力を身につけ、たくましく生きる力を育むことにある。連携するための手立てとして「異校種間連携事業」「異校種参観」「高浜カリキュラム」がある。これらの取組の中で見られた子どもの姿と教職員の姿から検証をしていく。